



新しい教育大綱の策定について

～ワークショップの成果を踏まえて～

共創 共育 郷生
ともに作り ともにそだち さとにいきる

1. これからの福津市の教育がめざす方向性

新しい教育大綱は、「共創（きょうそう） 共育（きょういく） 郷生（きょうせい） ～ともに作り ともにそだち さとにいきる～」をテーマとして、全ての市民が自分らしく幸せに生き、まちの未来に主体的に関わる力を育むプランとします。

●「未来の担い手」としての探究心と郷土愛の育成

子どもたちが自ら問いを立て、地域の人々と共に納得解を導き出す「探究的な学び」を重視します。地域の大人と対話し、働くことや生き方を考える経験を通じて、福津への愛着を深め、自らが「まちの創り手」とあるという意識を醸成します。

●「多人数・多層的なコミュニティ」がもつ可能性の最大化

多くの子どもたちが集まる福津ならではの環境を、「多様な価値観に触れ、互いに高め合える豊かさ」と捉え直します。大勢の中で揉まれながらも、一人ひとりが埋没せず、自分の役割を見出し、試行錯誤できる「活気ある学びの場」を整えます。支援を必要とする子や不登校の児童生徒も含め、誰もが自分の個性を発揮できるインクルーシブな教育を、地域総がかりで支えます。

●大人と子どもが共に創り・学び・過ごす「共創（きょうそう） 共育（きょういく） 郷生（きょうせい）」のまち

「誰が育てるのか」という問いに対し、学校・家庭・地域の境界を溶かし、大人も子どもも共に学び合う姿を目指します。大人が楽しそうに生き、まちづくりに励む背中を見せることで、次世代が福津の未来を担う最大の原動力になると考えます。

2. 策定方法へのこだわり（市長の哲学）

教育大綱の策定過程そのものを、未来の福津を担うための「対話と参画」の場と位置づけます。

●「対話」を軸としたボトムアップの共創

市長自らが提唱する「対話」を通じ、大人や子どもたちの生の声を計画に反映させます。既存の枠組みにとらわれず、小学生から高校生までを交えた話し合いの場を設けるなど、世代を超えた対話から本質的な願いを言語化します。

●「自分事」として捉える策定プロセス

完成した大綱が「行政が作ったもの」ではなく、「自分たちが関わって創ったもの」とあるという実感を重視します。この策定プロセスに関わること自体が、市民一人ひとりにとって福津の教育や未来を「自分事」として捉え

ワークショップで出された意見

環境

- ・自分たちの居場所を自分たちで創る
- ・学校以外の多様な学びの場を広げる
- ・不登校の子や親の安心できる場を作る
- ・学校で多様な学び方ができる環境整備
- ・公共施設の利用ハードルを低くする
- ・子どもが気軽に立ち寄れる拠点を設ける
- ・教室に入りにくい子の居場所を確保する
- ・放課後に自由に過ごせる環境を整える
- ・家庭環境に左右されない場所を設ける
- ・誰一人取り残されない学びの場を創る

愛着

- ・福津の豊かな自然を五感で体験する
- ・地域の歴史や世界遺産から深く学ぶ
- ・福津の良い所も悪い所も共に知る
- ・地域の課題を自分ごととして解決する
- ・地元の食材や農業から命の循環を学ぶ
- ・福津の資源を活かした活動を推進する
- ・郷土への愛着を育み未来の担い手へ
- ・地域の達人から本物の知恵を教わる
- ・外から見た福津の価値を再発見する
- ・福津の魅力を自ら発見し発信する

探究

- ・身近なルールを対話で自ら更新する
- ・社会のプロと本物の関わりで育つ
- ・若者が主体的に企画し社会に参画する
- ・地域の大人と一緒に街の未来を創る
- ・企業の知恵を借りた探究学習を行う
- ・ボランティアで人との繋がりを学ぶ
- ・失敗を恐れず新たな挑戦を積み重ねる
- ・地域の行事に当事者として深く関わる
- ・多様な世代との交流で視野を広げる
- ・自分の関わりで街が変わる実感を育む

共育

- ・大人も子どもも生涯共に学び合う
- ・互いの個性を尊重し認め合う社会へ
- ・地域全体で感謝を伝え合い 力を繋ぐ
- ・働く世代や子育て世代の学びを支援
- ・先生だけで背負わず地域で支え合う
- ・大人が心に余裕を持ち 育ちを見守る
- ・多様な背景を持つ人々が共に集う
- ・地域の組織力を高め 学びを継続する
- ・対話を重ねてエネルギーを一つにする
- ・幸せの基準を認め合える環境を創る

意見から導かれるこれからの学びに関する考え

- 「学校の枠を超えた「多様な学びの場」の確保」
- 「子どもが自ら選択し、創り出す「安心できる居場所」
- 「一人ひとりの状況に寄り添う「個別最適な環境」

ワークショップでは「幸せの基準は一人ひとり違う」という言葉が、多く見られた。学校という枠組みだけに捉われず、子どもも親も「ここなら自分らしくいられる」と思える多様な学びの場や居場所を、街のあちこちに広げていきたいという願いが多く見られた。既存の公共施設も、もっと自由に、子ども達が主体となって使いこなせるように。誰一人取り残されないよう、一人ひとりの状況に寄り添った「柔軟な学びのカタチ」を、福津のまち全体で支えていくことが重視されていた。

- 「福津の自然・歴史を五感で捉える「本物の体験」
- 「地域の課題を自分ごと化する「当事者意識の醸成」
- 「郷土の光と影を知り、未来を拓く「探究の心」

福津が誇る豊かな自然や歴史を、教科書の中だけでなく五感を使って「本物」から学びたいという声が多く出された。参加者が大切にしたいのは、地域の魅力（光）だけでなく、今直面している課題（影）も隠さず共有し、子どもと大人が一緒になって解決策を考えていく姿勢。福津という地を深く知り、自分たちのルーツを再発見する経験を通じて、「自分たちがこの街を創っていくんだ」という誇りと、多様な個性を認め合う心を育てていくことを大切にされていた。

- 「実社会のプロと協働する「産学官連携の探究学習」
- 「対話を通じてルールを更新する「主体的な社会参画」
- 「失敗を恐れず挑戦し、街を動かす「起業家精神の育成」

地域社会という「答えのない問い」が溢れる場所で、大人と一緒にワクワクする挑戦に挑みたい。そんな子ども達の主体性を全力で応援する街でありたいという意見がまとまった。校則の見直しや、街を楽しくするプロジェクトなど、自分達の関わりで「街が変わる」という実感こそが、未来を拓く確かな力となる。失敗を恐れずに挑戦し、企業の知恵や専門家のスキルを借りながら「本物の社会」と触れ合う。そんな探究のプロセスを、福津の教育に求める意見が出された。

- 「大人も子どもも共に成長し続ける「全世代型共育」
- 「個性を認め合い孤立を生まない「インクルーシブな土壌」
- 「地域全体で感謝と対話を紡ぐ「教育コミュニティの強化」

「教育は子どもたちだけのものじゃない」全世代が参加したワークショップで、最も強調された思いの一つ。大人が心に余裕を持ち、自ら学びを楽しみ、生き生きと活動する姿を見せること。その背中こそが、子どもたちへの最高の教育になる。障がいの有無や世代を超えて、お互いの個性をリスペクトし、学校と地域の壁をなくして手を取り合う。感謝を伝え合い、対話を重ねることで、福津に関わるすべての人が幸せを感じられる「共育」のコミュニティを求める声が出された。



「個別最適な学び」と「多様な居場所」の充実

- 1人1台端末を活用した、子どもの進度に応じた学習の支援
- 官民連携によるフリースクールや放課後等の学びの多様化への支援
- 「誰一人取り残さない」インクルーシブ教育システムの推進や校内教育支援センターの設置
- 次世代のデジタル環境の構築とAI・先端技術の教育利用の推進
- 保・幼・小・中・高・大の多機関連携による切れ目ない学びの支援

ふるさと「で」学ぶ

「郷土愛」の醸成と「未来の担い手」の育成

- 地域の人的・物的資源を活用した「ふくつの学び（ふるさと学習）」の実装
- 地域の産業や文化と連携した体験活動の充実
- 学校・家庭・地域の連携による、地域課題解決型学習の推進
- 「働く大人」との対話を通じた自己の生き方を深める支援
- 郷土資源を活用した、グローバル・ふるさと教育の展開

ふるさと「を」学ぶ

「探究的な学び」への変革と「社会参画」

- 総合的な学習（探究）の時間におけるPBLの充実
- 子どもの声を市政に活かす「子ども会議」「子どもと大人のワークショップ」等の仕組みづくり
- 評価方法の改善（パフォーマンス評価や多面的自己評価等）
- 実社会の課題を解決すると起業家精神等の育成
- デジタル・シティズンシップを基盤とした、主権者教育の高度化

ふるさと「と」学ぶ

「共育」の推進と「学校・家庭・地域」の連携強化

- コミュニティ・スクールの質向上や高校、大学、企業との連携強化
- 地域の人材による学習活動・体験活動の支援
- 保護者・地域住民を対象とした、学び合うワークショップの開催
- スポーツ・文化芸術活動の機会を確保する部活動の地域展開
- 教職員のウェルビーイング向上と地域人材活用による「チームとしての学校」の実現

ふるさと「とともに」学ぶ



福津市教育大綱 策定の考え方

1. 策定の目的：^{きょうそう}共創・^{きょういく}共育・^{きょうせい}郷生 ともにづくり ともにそだち ふるさとにいきる
大人も共に学び、高め合う「共育（きょういく）」の風土を築き、対話を通じた「共創（きょうそう）」で街を活性化させます。この「学び」を繋ぎ、互いの個性を尊重し「郷生（きょうせい）」する、全世代の幸せ（ウェルビーイング）を目指します。

2. 4つの視点：市民の願いを「ふるさと」に込めて

ワークショップで集まった多様な意見を、以下の4つの柱で構造化します。

- ふるさと「で」学ぶ【環境】：まち全体を学び舎に。誰一人取り残さない多様な居場所。
- ふるさと「を」学ぶ【愛着】：本物の体験から歴史・価値を知り、郷土への誇りを育む。
- ふるさと「と」学ぶ【探究】：地域課題に大人と共に挑み、正解のない問いを楽しむ。
- ふるさと「とともに」学ぶ【共育】：大人が楽しそうに学び、生きる背中を子どもに見せる。

3. 策定方法のこだわり：市民の「対話と参画」による策定プロセス

- ボトムアップ型：ワークショップ等から浮かび上がった「市民の本質的な願い」を言語化。
- 多世代の参画：子どもたちの声も核心に反映し、世代を超えた「共創」を実現。
- プロセスの共有：策定過程をオープンにし、完成と同時にアクションが始まる熱量を醸成。

「子どもをどう変えるか」ではなく、「大人も子どもも共に育つまち」へ

福津の豊かな資源を活かし、「子どもと大人の好奇心が躍動するまち」を、対話を通じて共に創り上げていく、市民全世代を対象とした学びのあり方を示すプランの策定をめざしています。

新しい教育プラン策定に向けたワークショップの開催概要

	日時	参加者数	内容
第1回	令和7年 12月20日（土） 13時半～15時半 市役所別館大ホール	45名 中学生6名、 高校生2名、 教職員18名、 地域住民19名	1 講話 『福津市の教育の成果と今後に期待すること』 福岡教育大学副学長・教授 伊藤克治氏 2 グループワーク 「『福津の未来の創り手を育む』とは何か」
第2回	令和8年 1月31日（土） 13時半～15時半 ふくとびあ健康プラザ	39名 中学生5名 高校生1名 教職員8名 地域住民25名	1 第1回ワークショップの振り返り 2 グループワーク 「『問い』を解決するために～子ども・教師・家庭・地域のみんなで知恵を出し合おう～」
第3回	令和8年 3月20日（金・祝） （予定）	（開催予定）	第1回、第2回のワークショップを踏まえた教育大綱案について、参加者が「具体的にできること」を考え、教育振興プランの内容へとつなぐ